

けやき

心も体も元気な岡村っ子

おもいやりを持ち、
かがやく自分を求めて、
むちゅうになって共に学び
みらいを創っていく子

10月

横浜市立岡村小学校・学校だより

R5.9.29

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okamura/>



秋の夜長に

校長 川村 真弘



一日の仕事を終えて帰宅後、夕飯をとったり、テレビを見たり、ベランダでくつろいだり……。すると、ベランダ越しに見える森から虫の声がよく聞こえる。ようやく秋を感じる季節になった。森の中からリー・リー・リーやら、リン・リン・リンやら、チンチロリンにスイッチョン。

本能に従って鳴くことで、人を得も言われぬ境地に立たせるとすれば、自利利他の心理を得て、一匹の虫も一隅を照らすことになるのだろうと嘯く。存外に「目的があるのか」とか「意味があるのか」と問えば、きっと、答えず。しかし、そのような余裕に包含されることも秋を楽しむ一興ともうひとつ嘯く。人の世もまた案外に、目的を求めず、意味を求めないことも一興である。漸く涼しくなって黙考も乙。目的も意味もない秋の夜長の戯言だが、子どもたちこそが、Society5.0だのICTだのAIだの、先端技術を学び、未来へ継承するものの、時にはそこから離れ、忘れ、求めず、ただ自然の摂理、閑雅に心を任せ、のんびり過ごすことも大事なことだとは、思索する。これもまた一人一人の多様な幸せ、well-beingなのだと思う。



「けやき」の巻頭言を模索している時、私が尊敬する先輩校長が、とある冊子に寄稿していた素敵な文章を見つけてヒントにしました。

「今日はとある川の遊歩道を歩く。丁度、登校時間だが知っている子どももいない。でも、遊歩道は桜並木も見事だし、川には鴨やサギ、カワセミ等や魚等々、歩けば歩いただけ素敵な景色に出会う。今はそれだけでいいと思っていた。」と、校長を退職してからの生活を綴る。子どもと会えない寂しさも示唆して、次のように結ぶ。「しかし、先日携帯で、カワセミの写真を撮っていたら登校途中の子どもが「カワセミを撮っている！」と声を上げて近付いてきた。一緒にカワセミについての話をした。歩くといいことがある。今日も「歩け、歩け」

横浜市退職小学校長会會報：元横浜市立小学校長：齊藤由香氏寄稿文より